

「ダイバーシティ」の 尊重のために

代表取締役社長 千石 雅仁



授賞式に先立ち、主催者であります東京書籍を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに

今回も、「東書教育賞」には全国各地の先生方から、120編を超える多くの論文をお寄せいただきました。

その中で、本日、小・中学校のそれぞれの部門で各賞をお受けになられる先生方に、心よりお祝いを申し上げます。

誠におめでとうございます。

新教育課程の幕開け

今年、2020年4月から、新しい学習指導要領に則って編集した教科書が、全国の小学校で使われ始めます。

この間、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」といった、さまざまなキーワードとともに語られ、準備が進められてきた新しい教育課程が、いよいよ小学校から完全実施されることとなります。

本日、ここにお越しの先生方だけでなく、今回の東書教育賞にご応募いただいた論文全体を拝見いたしましても、「社会に開かれた教育課程」と関連して、「地域」に目を向けた内容や、「カリキュラム・マネジメント」と関連した学校経営の内容、「主体的・対話的で深い学び」に関する内容が多く見られ、新教育課程への準備が、日

本全国で着々と進められていることを感じさせていただきました。

ICTが可能にする「アダプティブ・ラーニング」

一方で、今回の新教育課程の幕開けが、従来の新教育課程の初年度と、大きく異なる点が一つございます。それは、今年の4月から、制度上の学習者用デジタル教科書の使用が、本格的に開始されるという点です。

昨年12月に政府は、学校現場に一人一台の端末や、高速ネットワークを整備する「GIGAスクール構想」を閣議決定しました。こうした環境整備の進展にともなって、今後は学習者用デジタル教科書をはじめとした、さまざまなデジタル商品やサービスが学校現場に普及していくこととなります。

このようなICTの活用は、児童・生徒の学習履歴の蓄積や分析、活用を容易にすることで、一人一人の学習状況に対応した「アダプティブ・ラーニング」を可能にします。

画一的な指導ではなく、これまで先生方が取り組んでこられた、多様性のあるさまざまな児童・生徒一人一人に寄り添い、最適な学習内容や方法を提示する「個に応じた指導」を、より簡単に、的確に行えるようになることが期待されています。

「ダイバーシティ」の重要性

近年、日本では「ダイバーシティ」の重要性が唱えられるようになっており、学校現場でも「インクルーシブ教育」をはじめとして、多様性を尊重する教育が進められつつあります。こうした学校教育の場面での「ダイバーシティ」には、ICTの活用による「アダプティブ・ラーニング」が有効に働くことでしょう。

一方で、こうした多様性の尊重は、単に個々を尊重することが重要なのではなく、多様性のある児童・生徒同士が学び合い、高め合うことに本当の意味があり、それを実現するうえで、「主体的・対話的で深い学び」が重要であると考えております。

東京書籍は、学校教育における「ダイバーシティ」の尊重を後押しするために、今後は、紙の教科書・教材や学習者用・指導者用デジタル教科書といった商品やサービスだけでなく、さまざまな学習支援を可能にする教育プラットフォームも提供できるよう、準備を進めているところでもございます。

おわりに

東京書籍の創立75周年を記念して創設された

「東書教育賞」は、今年で35回目を数えました。そして、昨年、東京書籍は創立110周年を迎えることができました。

これも偏に、ここにお越しの先生方をはじめ、全国の先生方のご指導のおかげでございます。心より御礼申し上げます。

東京書籍はこれからも200周年に向けて、110年の長きに亘って積み重ねてきた、不易の企業理念である「教育と文化を通じて人づくり」を旨としながら、変化が激しく予想が困難な社会の中で、さまざまな課題を解決しながらたくましく生きていく子どもたちの育成を目指して、時代の動きに的確に対応した教育環境を実現すべく、力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、ご多用の折に、最終審査をご担当いただきました審査委員の先生方、一次審査をご担当いただきました東京教育研究所主任研究員の先生方をはじめ、ご協力をいただきました多くの先生方に、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

受賞された先生方の、今後の益々のご活躍をご祈念申しあげ、ご挨拶いたします。

ありがとうございました。